

のうきよう まがしづ



'92 **12** No. 216

のうきょう ちがべつ

長く続くミルクロード

今年も沢山の観光客が、

この道を通り抜けて行った。



もくじ

- 3 ——— 〈シリーズ〉
未来を担う若者 No.8
飯島 哲夫
- 4~5 ——— 〈営農技術〉
サイレージの二次発酵と対策
北根室地区農業改良普及所
- 6 ——— 〈わが家の人気者〉
ちょっと生意気なところがかわいいのよ
上原 美晴ちゃん
- 7 ——— 根室管内農業賞受賞
晴れやか秋山政雄さんご夫妻
- 8~9 ——— ヨーロッパ酪農事情視察報告パートII
西ドイツの村おこし運動
- 10 ——— 第40回全道JA婦人部大会に参加して
- 11 ——— 根釧地区JA青年部交流集会開催される
- 12 ——— 俣落開基75周年記念式典が開催される
- 14~15 ——— アメリカ・カナダ酪農研修に参加して
- 17 ——— 酪農技術研修講座報告
フリーストール牛舎施設をする前に
- 19 ——— 理事会の経過
- 20 ——— 〈暮らしの知恵袋〉
家計簿で1年を振り返ってみましょう
北根室地区農業改良普及所
- 22~23 ——— 今月のフォトアルバム

あす 未来を 担う若者

当幌 飯島 哲夫さん(27歳)



乳量500tを目指して意欲を燃やす

夫さんの父が二代目、そして哲夫さんが今の経営主である。入植当時は土地が1haほどだったそうですが、一代、二代と土地を開墾し、今では三十九haほどの農地になっている。

哲夫さんが光五郎さんから経営を譲り受けたのは昭和六十一年、

もかかり、あまり利益にはつながらなかったようである。

それから始めたのが餌計算、個体乳量、牛の体調を見ながら電卓をたたいたとの事。

「経営を譲り受け、自分なりに考えながら何回も壁にぶつかり、ようやくここまで来たが、やっぱり

いくたの壁を乗り越えて！

二十三歳の頃である。

その頃、経産牛は三十頭、乳量も二百t前後、しかし今では経産牛五十頭(総頭数百頭)出荷乳量も四百tに届こうとしている。

哲夫さんがまず最初に取り組んだ事は、「とにかく牛に腹一杯に餌を食べてもらおう事、そのために配合飼料も今までの二倍やり、粗飼料給与(サイレージ)も二回から三回やってみました。」

昭和三年、飯島午之助さんが埼玉県から現在地に入植、その当時三歳だったという光五郎さん(哲夫さんの父)が二代目、そして哲夫さんが今の経営主である。入植当時は土地が1haほどだったそうですが、一代、二代と土地を開墾し、今では三十九haほどの農地になっている。

り牛乳を搾るためには良い粗飼料がなくてはだめだね。それと良い草を作っても、サイレージ調整をうまくやらない」と話す。

乳牛頭数も着実に増え、乳量も伸びたが今一番問題なのは労働力、そこで今年には給餌舎とパドックを建設した。この給餌舎を作った事により、餌をやる時間は以前の半分くらいで済む様になった。それと牛が適度に運動しながら、自由に餌を腹いっぱい食べているせいか乳脂肪、無脂固形分も上がり、安定し良い結果となっている。

これからの目標としては、「経産牛六十頭で年間搾乳量五百tを目指したい」。その前提には、フリー



給餌舎のおかげで餌やりが楽になったと哲夫さん

ストール牛舎にパラ思考があるようです。

「毎日が忙がしくて、もう少し自分の自由な時間がほしいな」と話す哲夫さんですが、牛を見つめる目には、自分の向かう酪農の未来が映っているかのようでした。



家族3人で力を合わせ経営に取り組んでいます



北根室地区農業改良普及所

サイレージの二次発酵と対策

冬の訪れとともに、本格的な越冬用サイレージ給与の時期となっています。貯蔵したサイレージが、牛の口元まで運ばれるまでに二次発酵（好気的変敗）というやっかいな問題が、夏ほどではないが存在していることも事実です。

この二次発酵の問題をどのように解決していくのかを、以下再確認したいと思います。

(一) 二次発酵のメカニズム

サイロを開封しサイレージが空気に触れると、嫌気的条件下でこれまで活動を抑えられていた好気性微生物、特に酵母、カビが増殖し、菌の呼吸作用により変敗を起こす。図一に示す通り発熱の第一段階は、開封後一〜二日後の酵母による発熱で、その後の発熱はカビによる

ものである。

(二) 二次発酵したサイレージの性質

発熱変敗により乳酸含量が減少し、PHの上昇が見られる。蛋白質・ペプチド・アミノ酸の分解が進みVBN（揮発性塩基態窒素）が上昇する。可消化養分とエネルギーの損失、ADFとNDFの増加をもたらす。カビなど有害な物を含んでいるなどのことがいえます。

(三) 二次発酵の要因

一言で言えば、サイレージ作りに失敗した例がほとんどであろう。つまり以下の要素が関係してくる。

① 水分が適正でない。

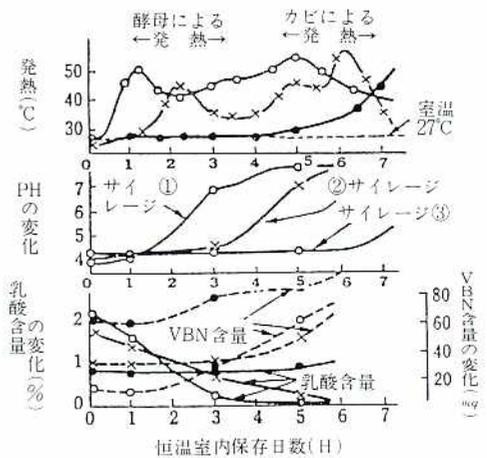


図1 変敗の進行と発熱、PH、成分変化例 (山下、1975)

(特に低水分で酸の組成が少ない場合)
② 詰め込み密度が適正でない。
(踏圧が不十分で空気排除が不完全な場合)
③ 密封が適正でない。
この他に以下のことが考えられる。

④ 外気温

図二は同一品質の原料草で、外気温とサイレージ温度との関係を示したものです。外気温二七度では、取り出し後二日目で四〇度で高温変敗する

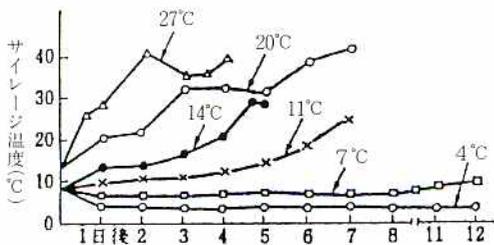


図2 外気温と変敗の速さ (山下、1973)



平成4年度農村社会 生活講座開催

- 一、講座のねらい
農村環境整備を通じた魅力あるまちづくりと、地域の活性化について実践事例を含めて学び、農村社会の活性化や農家生活の改善に役立てる。
- 二、主催
北海道立農業大学校、中標津町
- 三、後援
JA中標津町、JA計根別、根室支庁、北根室地区農業改良普及所
- 四、月日
平成五年一月二十日(水)
- 五、場所

- 中標津町根室地区農業共済組合
事業部大会議室
- 六、日程
下記の通り
- 七、受講対象者
農業者、農村婦人、農村青年、農業関係機関職員及び農業に関心のある人。
- 八、受講手続き
受講を希望される方は、農協、または農業改良普及所に受講申込書がありますので申込み下さい。
- 九、研修経費
受講料は徴収しない。ただし交通費、昼食費は自己負担とする。

日 程	項 目	研 修 内 容
9:50~10:05	開講あいさつ	
10:05~11:35	講 議	◇十勝サーカス 一チャンネルで農業について思うことー ★講師 高野 文彰 (高野ランドスケーププランニング)
11:35~12:30	休 息	
12:30~14:30	パネルディスカッション	◇緑あふれる景観をどう活かすか ーこれからの農村アメニティー ★パネラー 五十嵐智嘉子 (北海道開発問題研究調査会) ★パネラー 榎本 博司 (十勝西部地区普及所) ★パネラー 高野 文彰 (高野ランドスケーププランニング) ★パネラー 吉野 隆幸(ADDI工房) ★コーディネーター 太田アイ子(中央農業試験場)
14:30	閉 講	

が、七度以下では、サイレーン温度が一〇度以下と長期安定している。

二次発酵しそうなサイレーンは、できるだけ寒い時期に利用したほうが危険を回避できる可能性がある。

⑤取り出しが適正でない。
一日に取り出す量が少なくなり、空気にさらされる時間が多くなり調整・密封方法が良くても、結果的に二次発酵を起こすことになる。

また、取り出し時に使用する機械についても、バケット式フロントローダーで行なう場合に、草の切断長が長い場合に切断が垂直になりにくく、空気がサイレーン内部に入りやすくなり、二次発酵を起こしやすくなるといった問題もある。(バンガー、スタックサイロの場合)

(四)二次発酵の防止
二次発酵を防止するには、サイレーンを作る際の調整・密封を完

全に行なうことと、取り出し量を多くすることに尽きるが、あくまで調整方法とサイロ型式、大きさによって変化するので、所有している機械、施設と飼養頭数を考慮し、効率的な方法を選択すべきです。

取り出し量は一日当り十五〜二十cm以上が安全である。

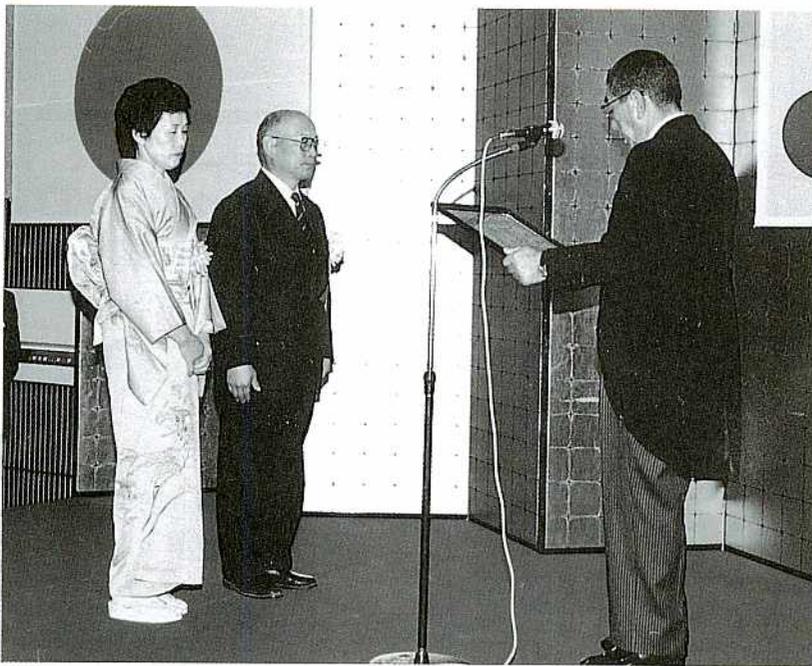
二次発酵時の対応は次の通りである。

- ①二次発酵している部分を取り出す。
- ②二次発酵防止剤を散布する。
○プロピオン酸(プロサン液)を水で五倍程度に希釈し、おおよそ一㎡当り五ℓを散布する。(散布量は原液で製品量の1%を基準とする。)
- ギ酸カルシウム複合剤
(メイズコファジル)
- 四〜〇・六kg/㎡を散布
その後、水を五〜十ℓ/㎡散布する。
- ③密封し一日以上開封しない。

根室管内
農業賞受賞

晴れやか 秋山政雄さんご夫妻

平成四年度第十六回根室管内農業



農業賞を受賞される秋山さんご夫妻

賞の表彰式が、十一月十九日中標津町寿宴で行なわれました。

この賞は、多年にわたり献身的努力をもって農業、農協の発展に尽力し、農業、農協経営について、単独、または協同によって有益な実践活動を通じて経営効率を高め、農民への生活文化に著しく寄与し、協同活動による生産と生活の近代化を促進し、そのことを通じて組合運動の発展に尽くした功績が顕著で、模範的である方々を対象に農協の推薦を受け受賞

されるものです。

今年の受賞者は四人で、中標津町農協からは、秋山政雄氏が受賞、関係者約五十人に迎えられ、吉田委員長から賞状と記念品が手渡されました。

功績 秋山家は、祖父が大正六年に四国の観音寺市より中標津町武佐に入植し、昭和九年、父勝彦氏とともに、根室支庁が計画した青年模範部落である共栄農場指導農家として現在地に入地、開拓の先駆者として鋭意努力され今日の基盤を築かれました。

昭和四十年より六年間にわたり、侯落拓北牧野組合の組合長を勤め、その卓越した運営手腕と指導力を持って、牧場用地百二十haの草地



造成を行ない、昭和四十四年には、全国草地コンクールで農林省畜産局長最優秀賞を得るなど、牧場運営の改革に取り組み、規模拡大に伴う個々の飼料不足、人手不足を補完、地域の酪農振興に大きく貢献しました。また、昭和五十年より平成二年

までの十五年間、農協理事に就任。この間、生産委員長などの要職に就き、幅広い識見と行動力をもって家畜消流事業、酪農ヘルパー事業、澱粉工場の運営に尽力し、協同運動の推進に努力されました。

さらに、農協酪対侯落支部長、侯落部落連合会長、営農用水運営委員、農業者年金協議会副会長などを歴任し、現在なお多くの要職をもって、農業振興と地域発展のため貢献されております。

受賞者

秋山政雄氏 (JA中標津町)

吉田 清氏 (JA標津町)

小館善作氏 (JA計根別)

松岡清治氏 (JAべっかい)



西ドイツの 「村おこし運動」

先月号で上村氏が全体にくわしく報告してくれましたので、一部分ですが旧西ドイツの村おこし運動について報告します。

シュレスヴィヒホルスタイン州 オステビ村

西ドイツでは、全国的に村おこし活性化運動が展開されている。当初は「わが村は美しく」との美化環境保全の色合いが濃かったが、今日では、村の活性化に「農家で休暇を」という経済と結びついた運動が柱になっている。

村おこし事業は、一九八四年以降のECにおける牛乳の生産制限（クォーター制）の開始によって始まり、酪農家の所得低下をカバーし、補完することを主目的としている。環境を破壊し農用地のスパロール化（都市の不規則な拡大

現象）を招くような工場誘致や、大型ホテルなどサービスマン産業の誘致は避け、農家住宅などの一部を改造し客室を造り、民宿を兼営するという方法を選択している。

そして、都市の人に対しては農村地域の田園及び森でのサイクリング、ピクニックなどの「ソフト旅行」の場を選択し、また、新鮮な農畜産物やその加工品を提供して、都市民との間の人間的交流を深めようというものである。

シュレスヴィヒ・ホルスタイン州では、第二次大戦後の一時期、東欧（ポーランド）からの避難民受入れのために、村落は二倍の人口になった。その後、その人達は新しい仕事場をウエストフアールン州に見つけ、引っ越して行き、再び元の人に戻った。その後、社



民家ベランダには期季折々の花を咲かせ、環境美化に努めている

会全体が豊かになり、豊かさを維持するために沢山の農地が住宅地に変わった。

この様な起伏の激しい変化に對

澱粉工場の操業 終る



平成四年度の澱粉工場の操業は、耕作者各位のご理解、ご協力によって去る十一月十七日、無事終了致しました。

作柄は、春先から低温、収穫期の雨などで、収量も平年作を下廻りました。原料処理量は、三十九万三千二百俵、製品生産量は検査袋数で、十九万六千一百十三袋、耕作者への還元袋数は、十五万七千三百三十九袋となりました。

平均ライマン価は、一七・六八%（前年一七・七九%）で若干下廻りました。これは紅丸、粉フブキ共に前年より〇・五%それぞれ低かったのですが、粉フブキの処理量が、出荷数量の五三・二%（前年四三・一%）に



民宿に泊まり乗馬を楽しむ

し、その対応を村落自身のみ委ねておくのではなく、しっかりとした計画を作り、村落及び州で補助する事になった。

そこで各農家が八、十人分のベッドを用意し、子供連れの家族に自然に適したサイクリングや、歩き運動をしてもらい、休暇を過ごしてもらおう。民宿は十人分まで、一度に幾つもの部屋を造るお金は持っていないので、一年に一室づつ造って行く。そのためには約二



オスピス村の改築された民宿

万マルク(百五十万円)かかるので、内八千マルク(約六十万円)を州政府は補助金として出す事になっている。この貸部屋で十人泊まるようにすれば、牛十頭分くらいの利益を上げられると言う。なお、客室は最高十人分までという制限があり、それ以上は本業(農業)の方が維持できなくなるからである。

なお、これらを実行するまでには、綿密な計画がたてられ、公園、幼稚園、学校など、これらに必要な下水道なども設計されている。「日本との相違」、わが国では工場誘致、別荘地の造成、スキー場、ゴルフ場などレジャー施設の設置、都市的観光開発などによって農用地、原野、山林などの転用をしている。そのためあたかも酪農、畜産業が公害発生源のように見られている。その点ドイツでは、国民に農業に対する理解をしてもらう場を提供しているのである。



増加したため、平均ライマン価は下らなかつたと考えられます。また、回収率は九七・〇%(前年九七・一%)と前年並となりました。今後も製品の品質を高めると共に、回収率の向上に努めてまいりますので、耕作者各位の一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

一生懸命生きることは 素晴らしいこと

竹下 定子



40周年記念祝賀会での楽しいひととき

道農婦協設立40周年記念 第40回全道JA婦人部 大会に参加して

十一月十二日、札幌グリーンホテルで開催された、道農婦協設立四十周年記念・第四十回全道JA婦人部大会に、当婦人部からは横田部長、長正路副部長、中司副部長そして私の四人が出席致しました。全道各地から千人のJA婦人部員が集まり、盛大に四十周年記念式典が行なわれました。



豊原ミツ子さんと記念写真の横田部長

歴代初代会長であった湯浅げのさん（八十三歳）のご挨拶、また、歴代会長五人、副会長五人への感謝状贈呈式が行なわれ、代表として中標津町の安達いそのさんが、お礼の言葉を述べられました。二人共高齢で、ご苦労が多かったと思いますのに、若く元気で大きな声でのご挨拶に感心致しました。午後二時四十五分からは、豊原ミツ子氏の「妻・母・そして仕事を持つ女」と題しての講演がありました。テレビで見えておりましたが、体当りで何事もやってこられた話など、ものすごくおもしろく腹の底から大笑い。ストレスが一変に飛んで行った様です。豊原ミツ子氏も「妻・母・仕事」と一生懸命にやってこられた方なので話されたことが、会場の皆様に伝わ

り大笑いが出たのだと思います。何事も一生懸命に生きるといふ事は、素晴らしい事だと感じ、頑張ってきた、農村婦人も共通するものがあつたと思えました。翌十三日は、午前八時十五分から全体大会が開催されました。フレッシュユミセスの主張コンクール北海道代表者の発表や、フレッシュユミセスによる三分間スピーチでは、皆さん色々な努力をされ、仲間づくりをされておられる事、素晴らしい事です。「ガンバレフレッシュユミセス」家の光記事活用体験発表では、家の光の本を心の糧として、永年頑張つて来られた三人の方が発表を行いました。標津町の河崎さんの身近な人の話を聞き、持ち前のファイトで頑張つて来られた事、私達も色々と参考にになりました。その中で「それは私のお守り」と題して発表された天塩町の天羽さんが、全国大会に出席されます。以上、簡単ですが報告とお礼にかえさせて頂きます。ありがとうございました。

根釧地区JA青年部交流集会在十一月二十五日、弟子屈町摩周観光文化センターで開催されました。

根釧地区JA青年部交流集会開催される

現状を見直し
広い視野で農業をみる

JA青年部交流



新たな発想が大事と講演する石田氏

今年「新たな農業経営とは?」十一世紀をめざしてキミはどうする」という大会テーマで、中標津町農協青年部からは十五人が参加。始めに「企業マインドと酪農ビジネス」と題し、石田邦雄氏による基調講演が行なわれました。

石田氏は、経営を行なっているからには自分で責任を取るといふ自覚がなくてはダメ、親から受け継いだ内容がわるい、農協がわるい、政治がわるいといつても最終的には自分の経営である。経営とは工夫や改善する事によりどんな変化して行く、農業は今厳しいと皆んなが言うが、厳しいと言葉で言った所で何も経営は変わりは

しないのである。今、自分の置かれている現状を見直し、小さな自分の枠をはずし、新たな枠へ、広い視点で農業を見るようにならないければならない。これからの農業は、環境保全、観光、教育という農業の持つ意味をしっかりとらえ、生産者の発想から消費者発想へと、マーケティング感覚を持たなければならぬと話されました。

次に各テーマごとに一、五の分科会に分かれ、討議が行なわれました。

分科会終了後は、農業経営事例発表、組織事例発表が行なわれ、経営事例発表では、標津農協青年部・森井義文氏の「夢と現実」と題した、フリーストール牛舎、ミルクキングパーラーを導入しての経営改善と生産実績の向上、環境整備の取り組みが発表され最優秀となり、また、組織発表ではJA厚岸町青年部がそれぞれ選ばれ、地区代表として全道大会へ参加する事となりました。

最後に、根室地区農協青年部連絡協議会会長・西條氏により、青年部盟友の組織を強化し、上から

の押しつけて方向を決めるのではなく、自分たちの地域、環境を考え、みんなで作る農業、新農政を築き上げるため頑張って行きましよう、閉会あいさつで終了しました。



分科会では活発な意見がかわされました

俣落開基75周年、俣落小開校70周年、俣落中開校45周年

記念式典が開催される



俣落のシンボルともいえるすばらしい記念塔

俣落開基七十五周年、小学校開校七十周年、中学校開校四十五周年を記念する式典が十一月一日、俣落小中学校体育館で開催されました。

大正六年、人跡未踏の地で開拓が始められ、五年後の大正十一年に小学校が建てられ、現在まで八百二十人の卒業生を送り出した。

この卒業生は地元をはじめ道内や全国各地で活躍している。

式には在校生、同窓生、旧職員、来賓など二百五十人あまりが出席し、部落連合会長・岩井昇氏らが式辞、地域や学校功労者に感謝状が贈られました。

また、記念事業として学校前に「ミルクの里・燃ゆる草原・また

「ミルクの里・燃ゆる草原・またおち村」の記念塔設置

おち村」の記念塔設置、グランドピアノの贈呈、記念誌の発行などが行なわれました。



多数の関係者のもと盛会に行なわれた式典

秋の収穫祭

おぼけカボチャコンテスト

中標津ジュニアホルスタインクラブ



去る十一月五日(休)午後七時半よりホクレン家畜市場に於いて、秋の収穫祭と題し、おぼけかぼちゃコンテストを開催致しました。参加者は、平日の夜と言う事で四十五人程で、また、かぼちゃも本年のあいにくの悪天候に阻れ出来が悪く、数が集まりませんでした。しかしながら集まったかぼちゃをくり抜くなど、楽しいアトラクションを行ない

北海道物産 まつりに出店参加 消費者ニーズを生産現場へ



商品説明、販売と汗を流した6日間です

農協青年部では、十月二十九日
十一月三日まで札幌丸井今井デ
パートで開催された北海道物産ま
つりに参加、じゃがいも伯爵、チ
ーズオンポテト、いもだんご、中
標津ビーフなどの販売PRを行な
いました。

この物産まつり参加は今年で五
年目を数え、中標津産伯爵及び農
産加工品、牛肉の販売PRはもと
より、生産者自らが販売にあたり、
品物売る事の大変さ、消費者と
のふれあいの中でニーズを把握し、
今後の生産現場で反映させる事を
目的に行なっている。

今年、バブル崩壊による消費
の低迷が原因なのか、前年の半分
くらいしか売れませんでした。
しかし、中標津の伯爵が物産ま
つりに販売されるのを待っていた
客も多く「例年伯爵を買っている
が大変おもしろく、本州へ贈っても
好評」との事です。中には、「北海道
で生産される馬鈴しよでA、B、C
のランク付けをすると、中標津の
伯爵は特Aクラスに入る」とのお
ほめの言葉もいただきました。ま
た、「伯爵いものおいしさを知らな
い人が沢山いるので、今後も販売
PRに頑張ってください」と励まし
てくれる人もおりました。

また、最近じゃがいものすり汁
を飲むと、胃や腸に効用があると
伯爵を買って求める客もいました。
そこでその人言わく、「色々な品種
のいものすり汁を飲んだが、伯爵
が一番飲みやすく、効果も良い」
との事。この事については、今後
の販売にあたりPRの一つとして
利用出来るかもしれません。

今年の物産まつりでは、販売実
績としてはあまり良い成果を上げ
る事は出来ませんでした。参加
した青年部員にとっては、大変勉
強になった様で、今年の反省や活
用出来る事をもとに、次年度活動
に反映させてほしいものです。



道内各地から出品された、
本州送りコーナーでの展示

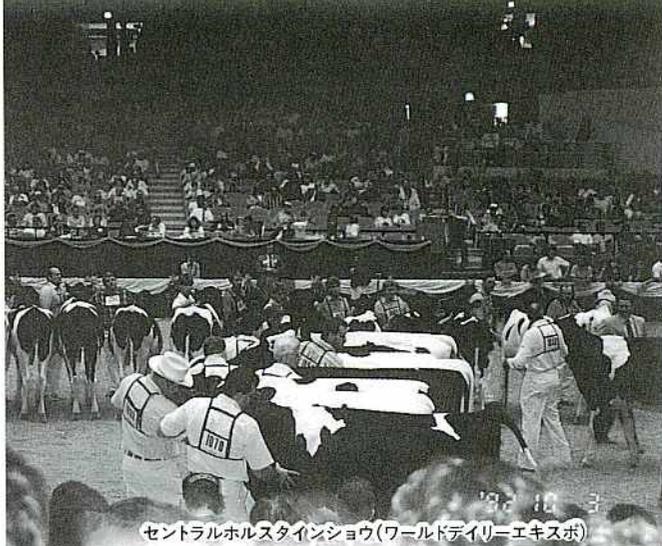
ました。また、日頃お世話にな
っている会員の父母の皆様と、
秋の夜長を道東の味覚で楽しみ
ました。

おぼけかぼちゃコンテスト結果
一位 五〇kg 佐々木 恵
二位 四〇kg 佐々木宏之
三位 三九・六kg 佐々木尚洋
四位 二五kg 齊藤 希
五位 一七kg 青山 智和
なお、このかぼちゃはウエデ
イングホール寿宴さんのほうに
飾っております。

〈これからの行事連絡〉
冬休み期間中に中学生以上を
対象に、中標津食品加工研修セ
ンターに於いて、手造りソーセ
ージの研修会を開催致します。
参加希望者は、農協家畜改良課
まで申し込んで下さい。



ユニークかぼちゃの完成に会員一同バンザイ



セントラルホルスタインショー(ワールドデリーエキスポ)

一行十四人、期待を胸に十月二日午後十二時十分成田を飛び立った。十三時間狭い機内での不自由な時間であったが、読書、映画鑑賞、睡眠、いづれも不十分な内に自由の国アメリカ・シカゴ空港へ到着。初めての風景に感激を押えながら、マディソン行きに乗り換え、午後一時過ぎ(日本時間午前一時)到着。疲れを忘れ早々マディソン・コロシウムへ急行、世界最大のショーとあって、胸を時めかし会場へ入る。五日間の日程のうちホルスタイン種のショー見学となった。

自然環境への思いからくる 農業生活を考えさせられる



●日程10月1日～14日

14日間

中標津町農協主催(最終回)

アメリカ・カナダ酪農研修に参加して

佐藤 徹

会場内は、電子アコーディオンの旋律が鳴り響く中、未經産牛のショーが始まっており、円を描き、手早い審査に観衆から熱い拍手が注がれて、見せ場を作っていた。各ショーマンに混ざり、若い女性が各部五～七人程愛牛を引いていた姿は印象的であった。また、ショ―見学者の中には、家族連れ、若い女性の姿が多く、酪農への関心や、イメージが日本とは随分違う光景であり、イベントも大がかりで、会場内や裏手には酪農機器、農機具、飼料、肥料などPRの絶好の機会として軒を連ねていた。合せて皮製品やキャラクター商品など手造り商品が、目立った。また、既舎では牛を売り込むかのように、賞歴や賞状を飾り付け、入口には花や椅子を置き、ゆつくり鑑賞してほしいと言っている様でした。私たち一行は一日半の日程を終え、十月四日シカゴへ向かう。バスの中からの風景は収穫前のコーン畑が続き、カントリーエレベーターが時折見られ、ハイウエーの道端には、F

OR・S・A・L・E(農場を売りに出している広告)と書かれた看板が時々立っていた(カナダでも同様に見られた)。シカゴに近付くと、広い敷地にビルが立ち並び、芝草が刈り込んであり、公園の中に立ち並ぶビルと言う感じである。住宅街についても八百坪位の敷地に七十坪の住宅(中流家庭)が立ち並び、芝草を伸ばしておく、業者が刈りに来て請求書が送られるそうです。環境を大切にす国民である事を知らされた。

高層ビル群が立ち並ぶシカゴ中心部は、不況の波が押し寄せ、ビルの二〇～三〇%が空室となっている程にアメリカ経済は冷えきっているとの事、失業者数も約二千四百万人と言いますから、アメリカ経済低迷は深刻の様です。また、シカゴは世界的に最先端を行く高層建築のメッカで、建築家は一度は来ると言う程、高層建築が美しく見ることが出来ました。

十月五日、シカゴ空港でのハプニング、機械故障で一時間半の遅れでシカゴを立ち、カナダ・トロントへ到着。ナイヤガラ見学は時間の遅れで遊覧船めぐりは中止。

しかし上からの眺めは、壮大な迫力で吸い込まれそうな水の流れに自然の力の美しさを味わう事が出来、感動の一日であった。

十月六日、カナダオンタリオ州での視察が始まる。

◎ウォーカーブレイン牧場（カナダ・オンタリオ州）

ユナイテッド人工授精所の佐々木氏の案内で、当牧場を視察、今回のセントラルショーでは、二番手に付けた、ワーガリーンド牛は目を見張る様な美しい牛でした。この様に、乳牛改良には意欲的な牧場でした。

経営概要

土地所有面積 百八十三ha

乳牛頭数 百五十頭（内搾乳牛七十五頭）

労働者 三人（内経営者息子、雇用一人）

平均乳量 九千kg

（オーナー不在のため精細な事は聞く事が出来なかった）

◎デパスキュア牧場（オンタリオ州）

六年前スイスから移住し、アレングロー牧場を買い取り、施設も近代化された牧場への入植、スイスでは、全国ホル協会長を十八年

間務めた、乳牛改良に熱心な牧場、セントラルショーにも出陳、牛舎内は、優良牛で一杯でした。ルーサン・コーン栽培が主流で、サイレージ、乾草、不足蛋白質などを購



カナダ・ウォーカーブレイン牧場での乳牛視察

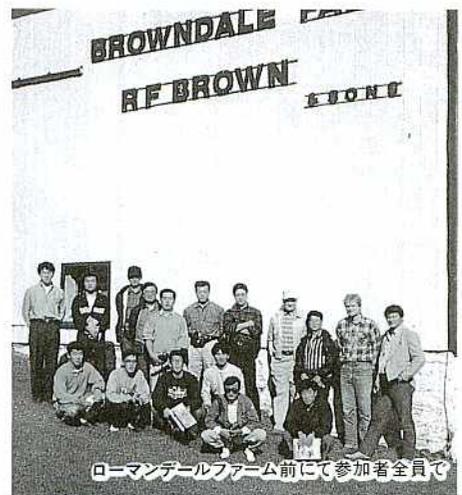
入し、コンプリートによる一日三回の給与を行なう。普通牛は四産で淘汰しているが、個体販売が主流である様にも思われた。牛舎、住宅周辺の環境は、公園にきている様な錯覚を覚える様に整備されていた。

十月七日、トロントを後に、約三時間の旅で、砂漠の中に出て来たらスベガスへ向かう。一日の観光

客約三万人が訪ずれるこの街は、二十四時間警察パトロールが行なわれ、治安は全米一良い所と言われる、また、ネオンパトロール隊が常時監視する程に、ネオンのすばらしさを固持しているかの様に思われた。

十月九日、最後の視察地カリフォルニアをバスで縦断、ロサンゼルスを出発、乾燥しきった大地を北上、夏は殆んど雨が降らず、全て灌水による耕作とあつて、緑とはならない事に驚きであった。水管理会社から年契約で水を買ひ営農をするようですが、塩害で約一年間は広大な面積に水を張り、塩を沈めてから作付をする方法で行なわれていた（塩害が始めるまでの期間耕作する）。今年の水不足で三五%の割り当てが減っていると

の事でした。更に走ると、野菜地帯での収穫風景が見られ、労働賃金の安いメキシコ人労働者が、一カ所四十人程がレタス、イチゴなどを収穫、ダンボール箱一個いくつで請負っている姿は、真剣そのものであった。バスの旅は二日間、日本の国土の一・一倍というカリフォルニア州は、経済的にも世界



ローマンドールファーム前にて参加者全員で

五位と言う程に生産力の高い州でした。この十四日間、今迄感じなかった自然環境への思いからくる農業、生活が私達農業に係わる者として、考えさせられる所がありました。最後にこの研修に参加させて下さいありがとうございます。

参加者は

団長 弾正原 正（北進）

福島 信一（南俵橋）

福村 稔（南共栄）

岡部 達也（豊岡）

渡辺 幸男（畜産販売課）

佐藤 徹（生活店舗課）

その他中春別、標茶、鶴居の生産者も加わり十四人で研修が行なわれた。



中標津消防署に寄贈された4WD救急車

「JA共済号」中標津消防署に配置

4WD救急車の活躍期待

中標津消防署に新しい救急車一台が、北海道共済農業協同組合連合会から寄贈され、十一月二十四

日受納式が行なわれました。

同連合会では多発する交通事故の犠牲者を少しでも救おうと、毎年救急車を道内自治体に贈っている。

今年には道内七カ所に寄贈、その内の一台が中標津消防署に贈られた。

新しい救急車は、定員十人乗りのディーゼルエンジン4WD車。この4WD車の導入は初めてで、冬期間の走行には今まで以上に安全性が高まった。

受納式では、管内農協共済連・

吉田推進委員長が「多発する交通事故で長距離搬送の状況も多く、事故による災害抑制の貢献を期待します」とあいさつされ、中標津町農協・五百木参事から新救急車の目録が贈呈され、大内慶治消防長が「JA共済号」と命名し引き渡されました。

平均収量前年対比 13%減

平成四年度

てん菜の出荷終える

平成四年度のてん菜出荷が、十月二十一日から始まりましたが、降雨の影響により若干の差異が生じたものの、生産者のご協力、また直送連絡員の乾氏のご尽力により、無事十一月二十日に終了しました。

本年は移植から収穫まで雨に悩まされた年でもあり、収量、糖分は以下の通りとなりました。

平均収量はha当り三十七・八トン(前年四十三・四トン)、平均糖分が一七・三三%(前年一七・七一%)となりました。

最低生産者価格・原料糖対策費



とも据置きとなりましたが、本年の作柄を考えると、総体で昨年比約一五%の減収入になりました。しかし、本年の天候を考えると、まずまずの収穫ではなかったかと思えます。耕作者の皆様ご苦労様でした。

フリーストール牛舎施設をやる前に

酪農技術研修講座報告

今年より根室管内の酪農を益々発展させるべく、一貫した酪農技

術研修講座(一年間通して約七十日間)が、根室管内農協職員を対象に開設されており参加させて頂いております。今まで四回の講座が開設されており、第一回目「酪

農経営と再建対策」(六月一〜六月六日)、第二回目「地域振興と農村生活の充実」(七月二十八〜八月一日)、第三回目「フリーストール」(八月十七〜八月三十日)第四回

「乳質改善と乳検」(十月二十六〜十月三十日)が終了しております。今後「乳牛管理」(飼料調整・草地管理)などの講座が開設の予定であります。

家畜改良課 長 瀧 豊
経営相談課 中村 正哉

今回、その中で「フリーストール」の講座（講師・伊藤紘一氏他）で学んだ事の一部で、フリーストール牛舎施設をする前に考えるべき事について、報告致したいと思えます。

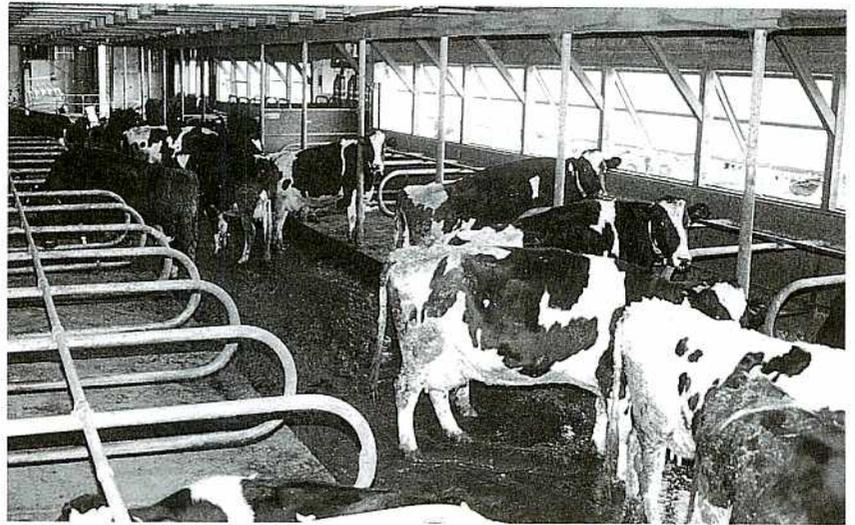
Dr.ウイリアム・ピカート氏はフリーストール牛舎設計の出発点として次の事を言っています。

○新築でも改造でも、施設の設計はその施設を使って達成したい健全な管理計画に基づいていないとてはならない。

○健全な管理計画とは栄養・健康衛生・育成などの全ての計画に加え、あらゆる管理作業に関する計画を意味し、健全とは、やろうとする計画が現在の酪農科学に照して間違っていないことを意味する。

○牛舎は管理計画を実行するための手段にすぎない。

ちよつと抽象的ですがこのことがポイントであり、つまり、（フリーストール牛舎）施設をする前にじっくり考える事が必要であるという事です。何を考えるのか。○その施設を使ってどうしたいの



か。そして、期限を決めて数量で目標を立てる。（フリーストールを建てるということが目標ではないのだ）

○牛の要求を十分に満足させる事が出来る環境について考え、牛の要求する環境とは一、喚気が

良いこと。二、水がきれいであること。三、飼料を腹一杯食べることが出来る。四、ベツトで心地良く休むことが出来る。他にもあると思います。悪い環境でも牛は文句を言わないけれど、泌乳量を制限しているのでは。

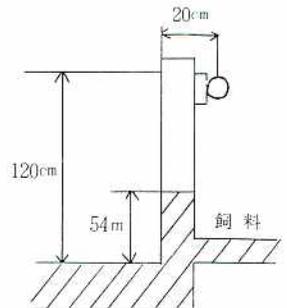
Dr.ウイリアム・ピカートという人は、ミシガンストール柵の開発者だそうですが、あのミシガンストール柵の形にも意味があった。隣の牛に迷惑を



かけないで、なおかつ寝起きの時にストール柵にぶつかからない様に、安心して行動が出来るように考え出されたものです。牛の行動を理解し、じっくり考えられたものなのです。

今以上に牛をじっくり観察し牛の要求について考えてみては。○作業性について考える。例えば

Dr.ウイリアムピカート氏の飼槽のデザイン



除糞はどのように押して、どこに持っていくか。除糞するのに仕切扉を何回開け閉めすることになるのかとか。その他、作業も多々あります。一つ一つ考えたら作業時間かなり短くなる可能性があるので。○まだまだ考える事はある。

施設をすることにより多額な投資をするわけですから、じっくり考え、牛にとっても人間にとっても有益な施設にしましょう。

なお、講座の内容はもつと濃密であり、農協に資料もありますので、詳しく知りたい方はお立寄り下さい。

今後も講座が続きますが、農業（酪農）に対しての総合的な力をつけるために一生懸命がんばりますので宜しくお願い致します。

●八割近くも残される輸出補助金

十一月二十日米農政府とE.C.委員会は、ワルグアイ・ラウンドの進展を阻んできた農業サービス貿易、市場アクセスの各分野で合意に必要な前進を遂げた。との共同声明を発表した。

しかしながら、米農とE.C.がどのような合意に達したとしても、わが国農業者は、こうした一部輸出国による取引をガット加盟国全体の合意の上台にするようなことは、絶対に認めることはできません。米農とE.C.は、公正な世界の農産物貿易を最も妨害してきた輸出補助金を撤廃するどころか、むしろ年々増大させてきました。そして、今、その輸出補助の大部分を残しながら、日本をはじめとする輸入国側へ例外なき関税化を押しつけるなど、一方的な犠牲を求め、自らの利益を反映したダンケル案の修正を輸出国側がめざしていることは明らかだと言わざるを得ません。これほど不正きわまりない交渉の進め方を、絶対に許してはならないと考えます。食料貿易を支配するための談合ともいえるこうした動きに対し、怕りの気持ちをおさえることができないのは私だけではないと確信します。

●犠牲にするわけにはいかない 国民の、子孫の長期的な利益

二度にわたる国会決議を踏まえ、自らの主張の実現を公約してきた政府・国会は従来の姿勢を堅持してさらに努力していただけるものと信じております。しかしながら、こうした私たちの気持ちが踏みにじられ、わが国が農業を守ろうとする政治を放棄するようなことになるなら、農業者を見捨てたのかといった不信感がかつてないほどの勢いで強まりかねないことを、敢えて申し上げておかざるを得ないのであります。

みなさん、私たちの主張の正当性に確信を持ち、それに賛同する多くの市民・消費者とともに、徹底してねばり強く闘っていかうてはありませぬか。私はこの運動の先頭にたち目標実現のため闘って行きます。

「認められぬ一部輸出国の「談合」 全国の農業者へ訴える！」

●まさにこれから始まるダンケル案修正交渉

基礎的食料の国内自給を堅持し、最低限の食料自給を確保することが長期的な国民的課題としてその重要性を増しているのは言うまでもありません。よって、わが国の農業全体に対し壊滅的な打撃を与える例外なき関税化の導入を、断固阻止しなければなりません。さもなければ、世界の食料貿易を牛耳る一部の大企業に私たちの営農と生活が支配されることになるばかりか、子孫の未来をも奪われることになりかねないのです。

ダンケル案を修正させ、日本の主張を実現するための交渉は、まさにこれからジュネーブで再開されます。生産と生活の場である農業・農村を守るため、過去数年間にわたって運動を進めてきた私たちが、その力量が今こそ問われようとしています。私たちの子孫に禍根を残すような関税を絶対にするわけにはいきませぬ。それが私たちの一致した気持ちであると確信しております。

みなさん、再度確認していただきたい。短期的な利益拡大をねらう一部輸出国の露骨な食料戦略を許し、国民の、子孫の長期的な利益を犠牲にするわけには絶対にいかないということを、そして正念場の闘いはまさにこれからだということを、私たちの村から、町から、そして都道府県から、従来にも増して強力な運動を展開されるよう、全国の農業者に私は強く訴えます。

平成四年十一月二十二日

全国農業協同組合中央会

会長 堀内 巳次



理事会

の経過

第十回理事会

開催月日 十一月五日

開催場所 農協中会議室

〈議案〉

- 一、平成四年度、上期（九月末）仮決算について。
- 二、平成四年度産、共計澱粉の融資単価と利率について。
- 三、地域畜産活性化総合対策事業の建設工事入札指名業者の決定について。
- 四、外部出資について。
- 五、組合員脱退予告及び譲渡などについて。
- 六、各種資金の申し込みについて。
- 七、固定資産の取得について。

〈協議事項〉

一、地区別懇談会の経過について。

〈報告事項〉

- 一、定例自治監査の監査報告について。
- 二、生乳生産状況について。
- 三、澱粉工場の操業状況について。

第十一回理事会

開催月日 十一月十四日

開催場所 農協中会議室

〈議案〉

四、アルカリイオン整水機の取扱いについて。

- 一、平成四年度地域畜産活性化総合対策事業肉用牛振興施設整備事業。

中標津町農業協同組合肥育牛舎新築工事の入札について。

入札者レイワクラ、釧根共同企業体に決定いたしました。

〈報告事項〉

- 一、中核農家バックアップ資金の創設について。
- 二、今後生乳計画生産の推進について。



平成4年度 てん菜生産実績(反収益)

(平成4年度てん菜耕作者41戸)



順位	氏名	反収量(kg)	平均糖分(%)	反収金額(円)
1	伏見 哲	4,591.7	17.7	84,625
2	花川 稔	4,845.0	17.0	84,545
3	長縄 義博	4,669.3	17.1	82,133
4	亀代 務	4,446.1	17.6	81,319
5	林 仁一郎	4,422.0	17.5	80,259
6	西崎 敬造	4,161.0	17.8	77,270
7	松田 征二	4,046.4	18.0	76,275
8	上原 安浩	4,254.9	17.3	76,035
9	長渕 重樹	4,257.2	17.2	75,480
10	佐々木 昭雄	4,080.5	17.6	74,632

暮らしの

知 恵 発



北根室地区農業改良普及所

今年もあとわずかとなりました。今年一年はどんな年だったでしょうか？家計簿で今年一年を振り返ってみましょう。

せっかくつけた家計簿も、活用しなければ意味のないものとなってしまう。今年一年の生活費はいくらだったのか、各費目はどれくらいかかっているのか、生活状態を知る上でも家計簿を整理してみましよう。

●食費

家族が健康で生きていくために必要な経費で、家計に占める割合も多いものです。

冷蔵庫の中にいつも食品があま

っていて、奥のほうで干からびたりしていませんか。毎日の食事は栄養がかたよっていませんか。自家生産物は上手に使っているでしょうか。

ちよつとの工夫と気づかいで健康な食生活が保たれ、また、食費のむだ使いが押えられます。

●光熱費

食費と同様に生活にはかかせないものです。反面、浪費しやすいものです。エネルギー資源の問題からも、我が家の光熱費を点検してみましよう。

●交際費

人間関係を円滑にするために必

要な費用ですが、必要以上に増大する可能性もあります。贈り物には心のこもった手づくりの品を。金額よりも心の充実を大切にしましょう。

このように、一つずつの項目を点検すると少しの工夫と努力で減らせるものや、無計画の結果があらわれたものなどが見えてきます。また、年末の集計が出たら、家族に公開し話し合いをもつと良いです。そして、このデータを生かして、来年の予算を立てて、より良い暮らしを考えていきましよう。

予算を立てるときは、初めはあまり無理なく、徐々に生活を見直していき、より良いものになるように補正する気持ちで立てると良いです。予算生活をする中で、足りない足りないといっていた頃より、物質的にはすすきりと、精神的にはゆつたりと暮らせるようになるでしょう。

さて、我が家の家計はどうでしょうか。

生活内容からみた診断のポイント

質 問	質 問	
食生活	住生活	<ul style="list-style-type: none"> ●新製品の発売やモデルチェンジ ●機器の故障や破損 ●住宅の手入れ
	光熱	<ul style="list-style-type: none"> ●冷暖房のスイッチ切り替えや燃料の調節 ●炊事の火力調節 ●電気、ガス、水道などの使用 ●光熱関係の機具の手入れや修理 ●漏電、水漏れなど ●照明の明るさ調節 ●熱効率
衣生活	教育	<ul style="list-style-type: none"> ●教育方針 ●学用品や玩具のあたえ方 ●物をたいせつにし、感謝するしつけ ●子どもの体や心の健康 ●教育費の準備 ●生活のマナーのしつけ
	交際	<ul style="list-style-type: none"> ●贈り物 ●来客の接待 ●手紙やはがき ●お祝い金や香典や見舞金など ●電話
住生活	経済準備	<ul style="list-style-type: none"> ●計画的な貯蓄や保健 ●貯蓄や保健の方法 ●保険や共済への加入 ●保険料や掛金の準備



キララガールも美味しい料理に花を添えてくれました

北根室地区農村女性講座が十月二十九日、雪印乳業中標津工場研修室で開催されました。これは、標津、計根別、中標津町農協の三農協合同による研修会で、毎年一回実施されております。

アイデア料理に舌づつみ!

北根室地区
農村女性講座



なかなか良く出来上がった様です

アイデア料理（ミニステーキ、テイルミスなど五品目）に挑戦し、出来上がった料理でバイキングパーティーを楽しみました。また、きららキャンペーンガールを招き、米消費拡大キャンペーンも行なわれました。

午後からは「農村女性の役割」と題し、中央会中村氏の講演も開催され、有意義な一日となりました。

JA婦人部とつくしの会との交流会

ボケさせないため、ボケないためには

こうすればいいの

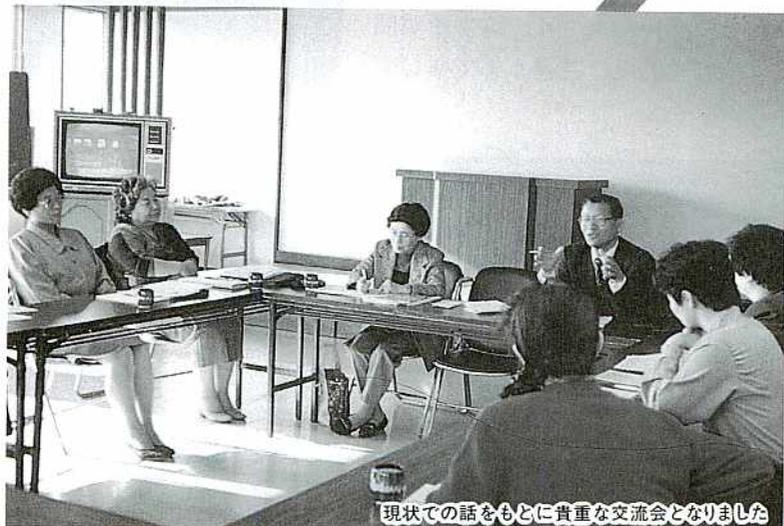
どうすればいいの

去る十一月二日、JA婦人部とつくしの会（中標津町呆け老人を支える会）との交流会が行なわれました。

交流会では、つくしの会の活動内容から始まり、ボケ老人をかかえる家族の実状、また、もし親がボケてしまったらどうしたらいい

のか、ボケ老人への接し方、そして、ボケさせないようにするためにはどうしたら良いのかなどのアドバイスもいただきました。

懇談会では貴重なお話を聞かせていただき、参加者も真剣に耳を傾けていました。



現状での話をもとに貴重な交流会となりました



講座は終了しましたが、また英会話にトライしたいと意気込む部員さんです

楽しく学んだ英会話

こんなに真剣に勉強するのは何年ぶり？

婦人部活動の新企画として開催された英会話講座が、10、11月の2カ月、計7回行なわれました。講師は、町内の中学生の英語指導助手としてオーストラリアから派遣されたレイチェルさん。日本語は2年間勉強してきたとあってとても上手。しかし、レッスンはすべてイングリッシュ。先生からの質問に対し日本語を使うものなら「レットトライ」と、なかなか厳しいものでした。

最後のレッスン終了後、受講者で食べ物を持ちよりミニパーティーを実施し、楽しく講座を終了いたしました。



お互い英語でのやりとり、テキストを見てはいけません

フ オ ト ア ス ル ズ ム

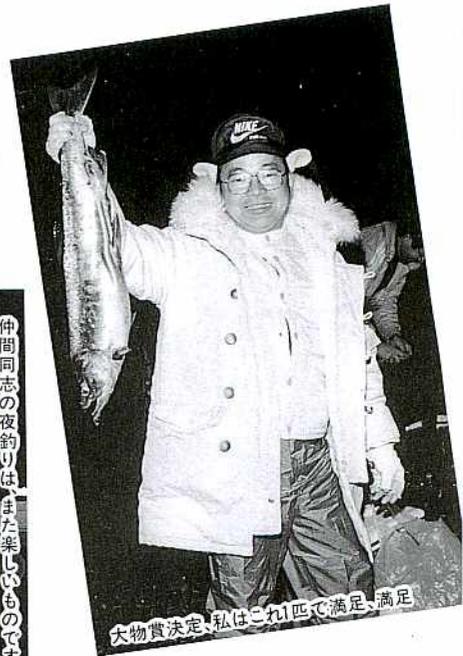
趣味と実益をかねた交流釣り大会

中標津地区青年部、共済組合中標津支所主催による交流夜釣り大会が11月13日、野付海岸で行なわれました。

この日は風、波も少なく釣りには絶好のコンディション、釣り開始の会図と共に大物ねらい第1投。開始早々秋アジを釣り上げる人もいて、我竿にも秋アジをと、参加者それぞれ竿先を見る目は真剣そのもの。潮まわりも良かったせいか大マイ、コマイが間隔よく釣れました。大会終了後は焼肉を囲み、夜遅くまで楽しく交流が行なわれました。



仲間同志の夜釣りは、また楽しいものです



大物賞決定、私はこれ1匹で満足、満足



試合前は準備体操で体をほぐし

ミニバレーで 親睦を図る

JA計根別婦人部との
スポーツ交流会

JA計根別婦人部とJA中標津婦人部とのスポーツ交流会が、11月18日、中標津町体育館で行なわれました。この交流会は昨年に引き続き2回目で、両婦人部合計40人が集まりました。

今回は両婦人部混合でチームを編成、ミニバレーボールを行ないました。初対面同志でも試合ごとに打ち解け合い、楽しい交流会を実施することができました。



おみこみスパイクは決まっただけ

中標津地区 かぼちゃまつり

中標津地区青年部による「かぼちゃまつり」が11月1日開催。

5月に種を配り部員全員に育ててもらいましたが、今年は長雨、天候不順により生育はいまいちで、10個



かぼちゃは小さかったが交流会は盛大でした



一応大きい順に並べてみました

のかぼちゃしか出品されませんでした。大きさ、重さも昨年の半分ほどでちょっとガッカリ。

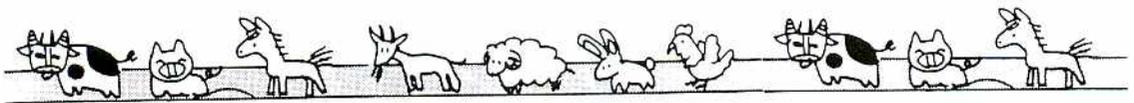
しかし、家族揃ってのおまつりとあって、大人も子供も焼肉を囲んで楽しく交流を深め、来年こそは100kg以上のカボチャをと意気込んでおりました。

年末の業務日程

業務名	日程	12月27日(日)	12月28日(月)	12月29日(火)	12月30日(水)	12月31日(木)	備考
一般業務		休み	平常業務	平常業務	平常業務	休み	
貯金、クミカン、為替		休み	平常営業	平常営業	平常営業	午後3時迄	
A T M (現金自動支払機)		休み	平常営業	平常営業	平常営業	午後3時迄	
ストアー		平常営業	平常営業	平常営業	平常営業	午後1時迄	28日～30日は 午前9:00～午後6:30 13日、20日、23日営業
給油所		平常営業	平常営業	平常営業	平常営業	午後2時迄	桜ヶ丘給油所は 23日閉営業します
人工授精		受付は午前 11時まで	平常業務	平常業務	平常業務	受付は 午後2時迄	
乳質検査 (体細胞、抗菌性物質)		休み	平常業務	平常業務	平常業務	12時迄受付	



- 2日 管理購買委員会
- 2日 婦人部とつくしの会交流会
- 4日～6日 内部審査
- 5日 第10回理事会
- 12日～13日 新クミカン制度説明会
- 14日 第11回理事会
- 16日 酪対役員会
- 17日 酪農委員会
- 27日 第3回第3次農業振興計画策定委員会
- 27日 婦人部生け花教室



編集後記

平成四年も残すところ後わずかとなりましたが、師走の月というのは何ともあわただしいものです。十二月から始まった営農計画書樹立は、順調に行っていますか？。例年より約二カ月ほど早いわけですから、多少とまどいもあると思いますが、一年に一回は必ず作成しなければならぬものですから、頑張ってください。

さて、今年一年を振り返り、皆さんにとってはどんな年でしたか？年明け早々に結論が出るかに思えたウルグアイ・ラウンド、今大詰めを迎えようとしている。また、パブル崩壊による影響で消費の低迷も大きく、乳製品の在庫もだぶつき気味。さらに牛肉自由化の波は大きく、乳牛個体価格は依然低迷を続けています。

やはり今年も厳しかったとしか言わざるを得ないのでしょうか。しかし、厳しいと口で言ったところで、何も解決にはならないのです。今年の反省を踏まえ、来年の計画樹立に向け皆さんで知恵を出し合い、厳しさを乗り越えて行きたいものです。

それでは皆さん良い年をお迎え下さい。